

昆虫類

【選定種解説】
昆虫類

昆虫類

● 概 説 ●

◆市内の昆虫相の特徴

新潟市の昆虫については、旧市域を対象に現地調査やそれまでの文献上の記録を基にした「新潟市昆虫目録」（1991）が、「新潟市史 資料編12 自然（別冊）」の中に収録されています。扱われた昆虫は、チョウ、甲虫、バッタ、カマキリ、トンボの5目で935種です。合併によって広がった現市域の昆虫に関しては、旧巻町の「角田山塊の自然」（1976）や旧黒埼町の「黒埼町史」（1994）で、現地調査による詳細なデータが報告されています。しかし、新しい新潟市の全域にわたる昆虫の本格的な調査はこれまでに全く実施されておらず、残念ながら何種の昆虫が生息しているのか把握できていません。ただし、国や県それに市町村が主体となって、「河川水辺の国勢調査」（国土交通省）をはじめ各種の環境調査が実施されており、上述した旧市域、黒埼、角田山塊などの調査結果と合わせると、約3,000種の昆虫の生息が確認されています。今後の調査によって、この数はおそらく倍増するものと予想されます。他の生物に比べはるかに種数が多い昆虫ですが、関心を持つ人は少なく、研究調査は大変遅れています。

比較的調査が行き届いているトンボ類は76種（佐藤，2009）、チョウ類は約80種、バッタやカマキリ類も約80種が市内から記録されています。種類があまりにも多く調査もまとめもこれからというコウチュウ類は800種以上、ガ類は1,500種以上生息しているのは確実です。その他にもハエ、カ、アブ類（ハエ目）、ハチ、アリ類（ハチ目）、カメムシ、セミ類（カメムシ目）など、多くの昆虫が生息しています。今後、全昆虫を対象にした現地調査を実施し、新潟市の昆虫相を明らかにしていきたいものです。

新潟市内で、昆虫の生息地として注目すべき地域は、北区から西蒲区に至る海岸部、西蒲区の弥彦山の一部まで含む角田山～多宝山の山塊、秋葉区の新津丘陵、佐潟（西区）、鳥屋野潟（中央区）、じゅんさい池（東区）、福島潟、松浜の池（北区）などの池沼、そして信濃川と阿賀野川の水域と河川敷などでしょう。今回もこれらの地域を重点的に調べ、大切にしたい昆虫の生息を確認することができました。しかし、かつて市内に確実に生息していた記録があるにもかかわらず、再発見できなかつた種もかなりの数になります。それらの種は、1950年代からせいぜい1960年代までは私たちの身近にいた昆虫です。その頃からの急激な都市化によって絶滅の危機に追い込まれていったのでしょう。しかし、近年、都市環境のなかに自然を取り戻そうという動きもあり、今

回の調査で確認できなかった昆虫が、今後私たちの目に触れるようになることを期待しています。

◆調査・選定の概要

本書では、新潟県が記載した147種のうちから50種、また新潟市独自の9種、計59種を希少種として選定しました。評価の結果、絶滅1種、絶滅危惧Ⅰ類14種、絶滅危惧Ⅱ類7種、準絶滅危惧28種、地域個体群9種となりました。選定理由別の種数は、絶滅1種、減少39種、環境悪化49種、希少7種、局限・孤立18種、分布限界8種、模式産地1種、その他1種です（複数の理由が重複している場合もあります）。

◆減少の要因

生育を脅かしている原因別の種数は、森林の改変11種、草地の減少6種、水湿地の減少26種、河川の改変9種、農地の改変11種、観光開発6種、一般開発26種、農薬使用15種、水質汚濁21種、その他7種です（複数の原因が重複している場合もあります）。

トンボ類や水生のカメムシ類などのように、繁殖や生息のために良好な水辺環境を必要とする種にとっては、水質汚濁や埋め立てなどによる水湿地の減少が直接的な減少原因となります。また、チョウ類やガ類などのように、植物相が豊富であることを求める種にとっては、産業的機能の低下に伴う里山の荒廃などによる森林の改変や、森林の消失に及ぶ各種開発行為が減少原因となります。さらに、海岸部を生息域とするバッタ類やコウチュウ類などにとっては、各種の開発行為による砂丘地や隣接する草地の減少が主要な減少原因になります。

ベッコウトンボ

トンボ目 トンボ科

Libellula angelina Selys

カテゴリー	新潟市 絶滅	新潟県 絶滅	環境省 絶滅危惧Ⅰ類
-------	-----------	-----------	---------------

【選定理由】

絶滅

【形態など】

腹長は雄24～31mm，雌23～28mm，後翅長は雄雌ともに30～34mm。ずんぐりした体形で毛深い。近似種のヨツボシトンボより黒っぽく，やや小さい。翅に黒い斑紋がある。

【分布の状況】

市内 市内ではかつて西蒲原の鎧潟に生息したが，同潟の消失以降，県内全域で絶滅したと考えられる。

その他 本州（宮城県，福島県，新潟県以南），四国，九州に分布記録があるものの，産地は局地的で少ない。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域内
写真提供：山浦 知雄

【特記事項】

国内希少野生動物種

コバネアオイトトンボ

トンボ目 アオイトトンボ科

Lestes japonicus Selys

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 絶滅危惧Ⅰ類
-------	---------------	---------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

腹長は雄28～33mm，雌26～30mm，後翅長は雄18～22mm，雌20～21mm。後頭部後面は黄白色で，翅胸部側面の金緑色の背面端がのびないこと，雄の尾部下付属器の先端が短いことで，他のアオイトトンボと区別される。日本産アオイトトンボのなかで最も小さい。

【分布の状況】

市内 市内ではかつて数ヶ所の生息地が記録されていたが（佐藤，2009），今回の市内現地調査を含め，近年は全く確認されていない。

その他 北海道を除く青森県から九州まで記録があるが，産地は局地的である。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域外
写真提供：加藤 直人

オオセスジイトトンボ

トンボ目 イトトンボ科

Cercion plagiosum (Needham)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 絶滅危惧Ⅰ類
-------	---------------	---------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化，局限・孤立

【形態など】

腹長は雄29～35mm，雌30～37mm，後翅長は雄21～26mm，雌22～27mmで，わずかに雌が大きい。一般的に成熟した雄は淡青色で，雌は若草色。雌にはまれに雄型の体色をするものもある。眼後紋は三角形で大きい。日本産イトトンボ属では最大。

【分布の状況】

市内 市内では，かつて10ヶ所以上の生息地を記録したが（佐藤，2009），最近では数ヶ所に減少しており，今回の市内現地調査では北区と西区の池沼で確認された。

その他 東北地方の一部，利根川水系や信濃川水系の下流部に分布するが，産地は局地的である。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域内
写真提供：加藤 直人

オオモノサシトンボ

トンボ目 モノサシトンボ科

Copera tokyoensis Asahina

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 絶滅危惧Ⅰ類
-------	---------------	---------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化，局限・孤立

【形態など】

雄雌ともに腹長は33～39mm，後翅長は21～26mm。モノサシトンボとよく似るが，雄では前肩条が消失するものが多いこと，腹部背面の黒条が，雄では第9節背面まで，雌では第10節背面までのびることで区別できる。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では北区，東区，西区の池沼で確認された。モノサシトンボとの中間型の個体も多い。

その他 利根川水系や信濃川，阿賀野川の下流域に分布するが，産地，個体数ともに減少が見られる。

【減少等の原因】

水湿地の減少，水質汚濁



撮影：市域内
写真提供：加藤 直人

アオハダトンボ

トンボ目 カワトンボ科

Calopteryx japonica Selys

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 —
-------	---------------	---------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化，局限・孤立

【形態など】

腹長は雄41～48mm，雌40～45mm，後翅長は雄31～37mm，雌33～40mm。同属のハグロトンボに似るが，やや小型で，特に雌の翅に白い偽縁紋があることで区別できる。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，1950年代には西蒲区（巻）での確認記録がある（佐藤，2009）。

その他 青森県から鹿児島県にかけて分布するが，四国での記録はない。県内では，1975年以降，記録が途絶えていたが，近年，上・中越での確認例が見られる。

【減少等の原因】

河川の改変，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域内 写真提供：山浦 知雄

ネアカヨシヤンマ

トンボ目 ヤンマ科

Aeschnophlebia anisoptera Selys

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	---------------	--------------	--------------

【選定理由】

減少，環境悪化，局限・孤立，分布限界

【形態など】

腹長は雄54～59mm，雌55～63mmの大型のヤンマ。胸部にあるV字型の2本の黒色条が特徴。翅の基部が橙色を呈し，ヨシ原にすむことから「根赤葦ヤンマ」の名がついている。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，1950年代には西蒲区（巻）での確認記録がある（佐藤，2009）。

その他 本州（新潟県，茨城県以西），四国，九州（宮崎県以北）に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，水質汚濁



撮影：市域外 写真提供：山浦 知雄

カトリヤンマ

トンボ目 ヤンマ科

Gynacantha japonica Bartenef

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 —
-------	---------------	---------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

腹長は雄51～57mm，雌52～57mm，後翅長は雄42～49mm，雌44～50mm。複眼が大きく，腹部第3節がくびれたほっそりしたヤンマ。体色は雌雄でほとんど変わらず，未熟なうちは淡褐色で，成熟すると緑色となる。蚊を捕食するヤンマの意。



撮影：市域外 写真提供：山浦 知雄

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，1950年代に秋葉区（新津），西蒲区（巻）で得られた記録がある（佐藤，2009）。

その他 北海道，本州，四国，九州に分布する。

【減少等の原因】

農薬使用，水質汚濁

メガネサナエ

トンボ目 サナエトンボ科

Stylurus oculatus (Asahina)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 準絶滅危惧
-------	---------------	---------------	--------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

腹長は雄44～48mm，雌46～50mm，後翅長は雄34～37mm，雌35～38mm。腹部第7～9節が著しく広がる。ナゴヤサナエに似るが，腹部第7節背面の黄色斑が楔型に後方にのびることで区別できる。



撮影：市域内 写真提供：山浦 知雄

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，1950年代には，西蒲区（巻），秋葉区（新津）での確認記録がある（佐藤，2009）。

その他 本州の東北地方から近畿地方にかけて局地的に分布する。

【減少等の原因】

河川の改変，農地の改変，農薬使用，水質汚濁

オオキトンボ

トンボ目 トンボ科

Sympetrum uniforme Selys

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 絶滅危惧Ⅰ類
-------	---------------	---------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

腹長は雄30～33mm，雌31～35mm，後翅長は雄32～35mm，雌34～39mm。日本産アカトンボ属の中では最も大きい。体色は全体が鮮やかな橙色で，翅色は全体が淡い橙黄色である。腹部にはまったく紋がない。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，1950年代には，旧市域，西蒲区（巻），北区（豊栄）などでの確認記録がある（佐藤，2009）。

その他 本州，四国，九州（北部）に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域内
写真提供：山浦 知雄

アカハネバッタ

バッタ目 バッタ科

Celes skalozubovi akitanus (Shiraki)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 —	環境省 —
-------	---------------	----------	----------

【選定理由】

希少

【形態など】

体長は雄25～27mm，雌35～40mm。体色は褐色である。後腿節の背面より内側に黒褐色の3帯があり，後腿節には3個の暗い藍色の環がある。

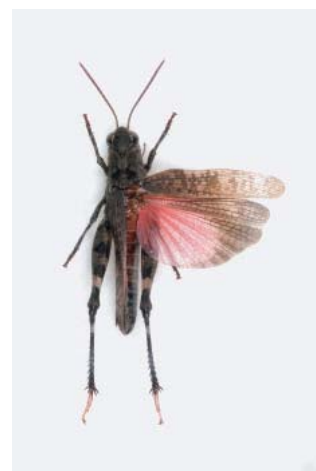
【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去には西蒲区（巻）の記録がある。

その他 本州に分布するが産地は局限され，県内でも柏崎，村上などから記録があるが，いずれも古いものである（長島，2005）。全国的に見ても1986年以降の記録はない。海岸の砂丘地やまばらな松林などの下草に生息する。

【減少等の原因】

その他



撮影：市域外
写真提供：永幡 嘉之

タガメ

カメムシ目 コオイムシ科

Lethocerus deyrolli (Vuillefroy)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	---------------	---------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は48～65mm。日本産カメムシ目の中でも最大級の種である。体色は灰褐色～褐色を呈する。前脚は強大な捕獲脚となっており，末端に爪が1つある。中脚と後脚は遊泳脚となる。尾端に伸縮自在の呼吸管があり，これを水面に出して呼吸する。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていない。かつては各地の水田に普通に見られたが，近年の確実な記録はない。

その他 北海道，本州，四国，九州，沖縄県に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域外
写真提供：中野 潔
※下の写真は，胎内昆虫の家で飼育中の個体

タイコウチ

カメムシ目 タイコウチ科

Laccotrephes japonensis Scott

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 —
-------	---------------	---------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は30～38mm。体色は灰褐色～暗褐色を呈する。前脚は捕獲脚となり，腿節の基部近くに鋭い刺がある。中脚と後脚は遊泳脚となる。腹端には体長と同じ長さの呼吸管が，尾のような格好でついている。

【分布の状況】

市内 市内では，北区，秋葉区の湖沼や水田地帯で確認されている。

その他 本州，四国，九州，沖縄県に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，水質汚濁



撮影：市内
写真提供：廣井 聡

カバシタムクゲエダシヤク

チョウ目 シヤクガ科

Sebastosema bubonaria Warren

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 絶滅危惧Ⅰ類
-------	---------------	---------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

雄の開張は35mm程度。橙黄色で前翅には大きな横脈紋と黒色の内・外横線をもち、後翅には黒色の中・外横線をもつ。雌の翅は退化している。年1化で、3月下旬から4月上旬に出現する。昼間活動する。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていない。旧市域（関屋浜）に1950年代後半に生息していたが（佐藤ら，1963），その後全く確認されおらず絶滅が危惧される。

その他 県外でも本州の数ヶ所で確認された記録があるが、既に雄は40年以上、雌は20年以上再発見されていない。



撮影：市域内
写真提供：佐藤 力夫

【減少等の原因】

森林の改変，一般開発

【特記事項】

写真の標本は1958年に市内で採集されたもの。

マークオサムシ

コウチュウ目 オサムシ科

Carabus maacki aquatilis Bates

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	---------------	---------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化，局限・孤立

【形態など】

体長は25～30mm。体色はほとんど緑黒色だが、上翅の凹んだ部分ではやや銅緑色を帯びる。上翅の1次原線は太く強く発達することにより、特徴的な彫刻がある。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが、過去には北区（豊栄）での確認記録がある（小池，1998）。

その他 本州（関東以北）に分布するが、生息地は低湿地に限られる。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，観光開発



撮影：市域外
写真提供：胎内昆虫の家

シャープゲンゴロウモドキ

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

Dytiscus sharpi Wehncke

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 絶滅危惧Ⅰ類
-------	---------------	---------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は30mm程度。体色は背面がわずかに緑色を帯びた黒褐色で，上翅側縁が黄帯で縁取られる。腹面は暗赤褐色。後基節突起の先端は丸まる。雌の上翅に通常各10条の縦溝が発達するため，雌雄の区別は容易である。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，古く北区（豊栄）での確認記録がある（中村，1925）。

その他 本州に分布する。県内では近年，胎内市，長岡市，佐渡島で生息が確認されている。

【減少等の原因】

水湿地の減少，一般開発，水質汚濁



撮影：市域外
写真提供：胎内昆虫の家

【特記事項】

県内には同属の他種が生息しておらず，中村（1925）のゲンゴロウモドキ（*D. marginalis* L.）が本種に該当するものと考えた。

マダラヤンマ

トンボ目 ヤンマ科

Aeshna mixta soneharai Asahina

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 —
-------	---------------	---------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化，局限・孤立

【形態など】

腹長は雄44～48mm，雌42～48mm，後翅長は雄40～44mm，雌41～46mm。雄は成熟すると淡青藍色になる。翅胸前面のハの字形の淡色条がないことで同属他種と識別できる。日本産ルリボシヤンマ属で最も小さい。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去には旧市域や北区（豊栄），西蒲区（巻）での確認記録がある（佐藤，2009）。

その他 北海道南西部から本州東北地方，関東地方の一部，上信越地方，北陸地方にかけて分布する。



撮影：市内
写真提供：山浦 知雄

【減少等の原因】

水湿地の減少，水質汚濁

ホンサナエ

トンボ目 サナエトンボ科

Gomphus postocularis Selys

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 —
-------	---------------	---------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

雄雌ともに腹長は33～36mm，後翅長は29～32mm。胸部，腹部は太く，ずんぐりした体型である。翅胸部前面に背隆線をはさんで，一对のZ字形の黄色条があるのが特徴。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去には旧市域，秋葉区（新津），西蒲区（巻）などでの確認記録がある（佐藤，2009）。

その他 北海道，本州，四国，九州に分布する。

【減少等の原因】

河川の変更，農地の改変，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域内
写真提供：山浦 知雄

ズイムシハナカメムシ

カメムシ目 ハナカメムシ科

Lyctocoris beneficus (Hiura)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	---------------	---------------	---------------

【選定理由】

環境悪化

【形態など】

体長は3.5～4mm。表面に微毛を有する。頭部及び前胸背は黒色で，半翅鞘は全体に光沢のある淡黄色を呈する。小型種が多いハナカメムシ科の中では大型で，がっしりとしている。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていない。

その他 本州，四国，九州に分布する。県内では北蒲原や佐渡で記録がある。

【減少等の原因】

農地の改変，農薬使用

【特記事項】

稲の害虫であるメイガ類の捕食天敵として知られる。かつて普通種とされていたが，農薬等の影響で害虫とともに減少した。



撮影：市域外
写真提供：山田 量崇

ホソバセセリ

チョウ目 セセリチョウ科

Isoteinon lamprospilus C. et R. Felder

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	---------------	--------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化，希少，局限・孤立，分布限界

【形態など】

開張は35mm前後。翅の表面は茶褐色で，前翅には比較的大型で数個の白斑がある。翅の裏面はほぼ黄褐色で，黒く縁取られた多くの銀白色紋が目立つ。県内では6～7月に見られる。セセリチョウ科としては飛翔が緩やかである。幼虫はススキなどを食べる。



撮影：市域内
写真提供：丸山 滋

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去には岩室，間瀬，角田山など西蒲区での採集・観察記録がある（榎並ら，2007）。

その他 本州（新潟県，福島県以西），四国，九州に分布する。

【減少等の原因】

森林の改変，草地の減少，一般開発

ホシミスジ

チョウ目 タテハチョウ科

Neptis pryeri Butler

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	---------------	--------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

開張は60mm前後。翅の表面は黒色で，前後翅にかけて3本の白帯がある。前翅の表面基部から出る白帯は4～5つに分離し，後翅裏面基部に黒色斑群が現れるのが特徴である。成虫は食樹に対する執着が強く，シモツケ類からあまり離れない。県内では6～7月に見られる。



撮影：市域内
写真提供：丸山 滋

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去には秋葉区の新津丘陵での採集記録がある（丸山ら，2006；榎並ら，2007）。

その他 本州，四国，九州に分布する。

【減少等の原因】

森林の改変，一般開発

オオムラサキ

チョウ目 タテハチョウ科

Sasakia charonda (Hewitson)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	---------------	--------------	--------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

開張は90mm前後。翅の地色は雌雄ともに暗褐色で黄～白色の斑点がある。雄は前後翅表面の基部半分が紫色に輝き，雌にはこの紫色部がない。日本の国蝶とされる種で，力強く飛翔してクヌギなどの樹液に集まる。県内では6～8月に見られる。越冬幼虫はエノキ根元の落葉裏面で発見され，ゴマダラチョウに似るが，より小型で，背面の突起が4対であることで容易に判別できる。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，1950年代には新津地区での観察記録がある（丸山ら，2006）。



撮影：市域外
写真提供：丸山 滋

その他 北海道，本州，四国，九州に分布する。

【減少等の原因】

森林の改変，一般開発

ムナカタミズメイガ

チョウ目 ツトガ科

Parapoynx ussuriensis (Rebel)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	---------------	--------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化，局限・孤立

【形態など】

開張は20～22mm。翅の地色は灰褐色で，前翅の3分の2は暗色，後翅の半分は淡黄色である。外横線は前後翅ともに黄色を呈する。前翅の横脈紋は黒色で，明瞭である。沼沢地に生息する。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，1960年代には東区（じゅんさい池）に生息していた。

その他 県外でもこれまでに確認された生息地は，北海道と岩手県などの限定された沼沢地である。



撮影：市域内 写真提供：吉安 裕

【減少等の原因】

水湿地の減少，一般開発

【特記事項】

写真の標本は1963年にじゅんさい池で採集されたもの。

オナガサナエ

トンボ目 サナエトンボ科

Onychogomphus viridicostus (Oguma)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 —
-------	--------------	----------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化，局限・孤立

【形態など】

腹長は雄40～46mm，雌39～42mm，後翅長は雄32～36mm，雌34～37mm。体色は黒く，黄色の条斑がある。翅胸前面には地の黒色に八の字の黄色条がある。雄の7～9腹節が大きく広がり，尾部上・下付属器がともにきわめて長いのが特徴。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では，秋葉区の丘陵地の沢筋で確認されている。

その他 本州，四国，九州に分布する。

【減少等の原因】

河川の改変，水質汚濁



撮影：市域外
写真提供：山浦 知雄

ナゴヤサナエ

トンボ目 サナエトンボ科

Stylurus nagoyanus (Asahina)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	--------------	--------------

【選定理由】

減少，環境悪化，局限・孤立

【形態など】

腹長は雄42～47mm，雌43～46mm，後翅長は雄33～35mm，雌34～37mm。メガネサナエに似るやや大型。体色は黒く，黄色の条斑がある。腹部第7節背面の黄斑はあまり後方に伸びない。雄の腹部第7～9節が横に強く広がる。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では，いくつかの区の大河川や中小河川で確認されている。

その他 本州（東北地方南部）から九州にかけて局地的に分布する。

【減少等の原因】

河川の改変，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域内
写真提供：加藤 直人

※下の写真は，羽化した後の脱皮殻

アオヤンマ

トンボ目 ヤンマ科

Aeschnophlebia longistigma Selys

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

腹長は雄49～53mm，雌45～51mm，後翅長は雄43～46mm，雌45～50mm。体色は黄緑色から青緑色で，顕著な黒条がある。腹部第3節がくびれず，全体がほぼ円筒形のやや大型のヤンマ。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では，東区の抽水植物の多い池沼で確認されている。

その他 北海道（道南地方），本州，四国，九州，対馬などに分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域内
写真提供：加藤 直人

トラフトンボ

トンボ目 エゾトンボ科

Epitheca marginata (Selys)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

腹長は雄34～39mm，雌33～37mm，後翅長は雄雌ともに34～39mm。オオトラフトンボをやや小さくして黒味を強めたような中型のトンボである。体色は黒地に橙褐色の独特の斑紋がある。雄の翅はほぼ透明で，基部に小さな濃褐色斑があるが，雌の翅は前縁に黒褐色の帯があるものが多い。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では，北区や東区などの抽水植物，浮葉植物の多い池沼で確認されている。

その他 本州，四国，九州に分布する。



撮影：市域内
写真提供：山崎 芳彦

【減少等の原因】

水湿地の減少，農薬使用，水質汚濁

ハラビロカマキリ

カマキリ目 カマキリ科

Hierodula patellifera (Serville)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

環境悪化, 希少

【形態など】

体長は雄45～65mm, 雌52～70mm。体色は薄黄緑色から薄茶褐色を呈す。前翅の中央より基方に明瞭な白い斑点があり, 前脚基部にイボ状突起が3～5個ある。前胸腹板には黒色帯がある。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では, 旧市域の住宅街, 湖沼, 西蒲区の海岸砂丘で確認されている。樹上生活者で発見しにくい, 市街地の花壇や建物の壁などで卵鞘が見つまっている。

その他 本州, 四国, 九州, 沖縄県に分布する。

【減少等の原因】

森林の改変, 草地の減少, 一般開発



撮影: 市域内
写真提供: 北村 淳

ウスバカマキリ

カマキリ目 カマキリ科

Mantis religiosa Linnaeus

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 —
-------	--------------	----------	----------

【選定理由】

減少, 環境悪化

【形態など】

体長は雄50～68mm, 雌60～66mm。翅は乳白色で半透明。前翅前縁に沿って赤褐色を帯びる。前脚基節の内側に黒紋を有する。後腿節に端刺がない。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では, 旧市域や西蒲区の海岸部で生息が確認されている。市街地の花壇などにもおり, 比較的人工的な環境にも生息している。

その他 全国的には, 北海道, 本州, 四国に分布する。

【減少等の原因】

その他



撮影: 市域内
写真提供: 長島 義介

カヤキリ

バッタ目 キリギリス科

Pseudorhynchus japonicus Shiraki

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

環境悪化，希少，分布限界

【形態など】

体長は63～67mm。日本産クサキリ類のなかで体が太くて大きい。淡緑色型と淡褐色型がある。前胸背の両端に黄白色の縁取りがある。頭部は大きく，円錐型頭頂突起は，上面水平の三角形で先端は尖る。8～9月に出現し，夏は昼から夜にかけてニイニイゼミに似た声でジーと鳴く。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では，西蒲区の海岸部や北区の湖沼で生息が確認されている。ススキやヨシの群落が生息場所である。

その他 全国的には，本州（新潟県，茨城県以南），四国，九州に分布する。新潟県が日本海側の分布北限にあたる。

【減少等の原因】

草地の減少，水湿地の減少，河川の改変，一般開発



撮影：市域内
写真提供：長島 義介

オオクサキリ

バッタ目 キリギリス科

Ruspolia sp.

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

環境悪化，局限・孤立

【形態など】

体長は雄38～50mm，雌47～53mm。クサキリやヒメクサキリに似るがより大型で，雄は発音器がより大きく，雌は産卵管がより長い。前翅は鮮やかな緑色だが，稀に黄褐色の個体も見られる。また，雄の特徴として，前胸背面の両縁に黄色い線が走ることが挙げられる。大きな声でジーと鳴くが抑揚がある。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では，西蒲区の海岸部で生息が確認されている。ヨシやススキ群落に生息する。

その他 全国的には，関東平野と北九州から記録がある。新潟県が分布の北限にあたる。

【減少等の原因】

草地の減少，一般開発



撮影：市域内
写真提供：長島 義介

ヤマトバッタ

バッタ目 バッタ科

Epacromius japonicus (Shiraki)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 —
-------	--------------	----------	----------

【選定理由】

減少, 環境悪化

【形態など】

体長は雄29~31mm, 雌30~35mm。体色は灰色から淡灰褐色の地色で, 暗褐色の斑模様が不規則に点在する。頭頂突起は突出し, 顔面は傾斜が著しい。複眼は大きく黒褐色である。翅は細長く先端が尖り, 後翅基部が淡青色である。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では, 西区の海岸部で生息が確認されている。海岸の砂地に生息し, 体色は砂地によく似た隠蔽色。

その他 全国的には, 本州, 四国, 九州に分布する。

【減少等の原因】

一般開発, その他

【特記事項】

別名: ヤマトマダラバッタ



撮影: 市域内
写真提供: 長島 義介

ハルゼミ

カメムシ目 セミ科

Terpnosia vacua (Olivier)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

環境悪化, 分布限界

【形態など】

体長は雄26~31mm, 雌22~26mm。翅は透明だが, ほぼ全身が黒褐色である。成虫は5~6月に発生し, 晴天時に合唱する。

【分布の状況】

市内 市内では, 西蒲区の山地でわずかに鳴き声が確認されている。

その他 本州, 四国, 九州に分布し, マツ林に限って生息し, 特に丘陵地のアカマツ林を好む。近年, 各地でマツ枯れが進行し, 発生地域が減少した。県内では, 三条市, 長岡市, 柏崎市, 弥彦村などの一部地域で, 安定して発生している。

【減少等の原因】

森林の改変



撮影: 市域外
写真提供: 中野 潔

ハマベツチカメムシ

カメムシ目 ツチカメムシ科

Byrsinus varians (Fabricius)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	--------------	--------------

【選定理由】

環境悪化, 局限・孤立, 分布限界

【形態など】

体長は約4mm。体色は光沢のある暗褐色から赤褐色で、触角は極めて短い。頭部の前縁に短毛を生じ、数本の長毛が混じっている。

【分布の状況】

市内 市内では、中央区の海岸地域で確認されている。

その他 本州, 九州に分布する。

【減少等の原因】

一般開発, その他

※砂浜及び海浜植物群落の減少により、生息域が減少したと考えられる。



撮影：市域内
写真提供：北村 淳

ババアメンボ

カメムシ目 アメンボ科

Gerris babai Miyamoto

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	--------------	--------------

【選定理由】

環境悪化, 局限・孤立

【形態など】

体長は7～9mm。体色は黒色で、胸部側縁の青みが強い。通常は長翅型（写真）のほか、短翅型や微翅型も出現する。雄の第7腹板後縁内方の切れ込みは幅広い四角形を呈する。

【分布の状況】

市内 市内では、北区及び西区の池沼で確認されている。

その他 北海道, 本州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少



撮影：市域内
写真提供：北村 淳

イトアメンボ

カメムシ目 イトアメンボ科

Hydrometra albolineata (Scott)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	--------------	--------------	---------------

【選定理由】

環境悪化

【形態など】

体長は11～14mm。体色は暗褐色で、体は細長く、頭の先端部が大きく膨れる。雄の腹部第7節腹面には長毛が密生する。飛翔できる長翅型と飛翔できない微翅型の個体がある。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていない。池沼、河川、水田の水際部の雑草間に生息する種であり、かつては広く分布していたものと思われるが、確実な文献上の記録は北区の福島潟である（長谷川、1960）。

その他 本州、四国、九州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少、農地の改変



撮影：市域外 写真提供：北野 忠
東海大学教養学部

コオイムシ

カメムシ目 コオイムシ科

Appasus japonicus Vuillefroy

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	--------------	--------------

【選定理由】

減少、環境悪化

【形態など】

体長は17～20mm。上から押しつぶされたように扁平で卵形をしている。体色は黄褐色から暗褐色を帯びる。前脚付節は捕獲脚、中脚と後脚は遊泳脚となる。尻に短い尾があり、尾の先を水面に出して呼吸する。

【分布の状況】

市内 市内では、北区の湖沼で確認されている。

その他 北海道、本州、四国、九州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少、水質汚濁



撮影：市域外
写真提供：中野 潔

ギフチョウ

チョウ目 アゲハチョウ科

Luehdorfia japonica Leech

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	--------------	--------------	---------------

【選定理由】

環境悪化

【形態など】

開張は55mm前後。翅表は黒と淡黄色の縞模様。後翅外縁に橙色紋，その内側の黒帯の中に藍色の小斑点，肛角に赤色斑をもち美しい。雄は体の背面に長い毛が多く，雌では少ない。市内では4月上旬～下旬の晴天の日，まだ春浅い里山の明るい雑木林や尾根筋を飛ぶ。県内での食草はコシノカンアオイ，ユキグニカンアオイなど。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では西蒲区（角田・弥彦山系）や秋葉区（新津丘陵）などで確認されている。

その他 日本特産種で本州に分布する。北限は秋田県，西限は山口県であり，日本海側にはほぼ連続して分布する。

【減少等の原因】 森林の改変，一般開発



撮影：市域内
写真提供：丸山 滋

ハマヤガ

チョウ目 ヤガ科

Agrotis desertorum hamayaga Kobayashi

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化，模式産地

【形態など】

開張は32～36mm。雄の触角は鋸歯状である。前翅は淡灰黄色で，外横線と腎状紋以外は不明瞭である。後翅は白色である。幼虫は海浜性植物の葉を食べる。8～9月に出現する。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では，北区，西区，西蒲区の海岸部で確認された。

その他 市外では，柏崎市，胎内市，新発田市の海岸部から記録がある。県外では秋田県と石川県の海岸部に分布している。

【減少等の原因】

一般開発



撮影：市域内
写真提供：佐藤 力夫

【特記事項】

最近Kobayashi (2009) によって，西蒲区や北区の標本を基に亜種 *hamayaga* が記載された。西蒲区越前浜がタイプ産地である。

ヤヒコカラスヨトウ

チョウ目 ヤガ科

Amphipyra subrigua Bremer et Grey

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

開張は35～36mm。前翅は濃い茶褐色で、外横線は黒色波状である。中室内に黒色条があり外横線に至る。後翅は前翅よりやや淡い茶褐色である。ツゲに固有の種。

【分布の状況】

市内 弥彦山が日本で最初の発見地だが、近年の調査ではごく少数の個体しか確認されていない。今回の市内現地調査でも、同山の市域からわずか1個体が確認されただけである。

その他 県内外の生息地は何ヶ所か報告されているが、いずれもツゲの自生と関連しており、分布域は限定されている。

【減少等の原因】

森林の改変，観光開発



撮影：市域内
写真提供：佐藤 力夫

コシロシタバ

チョウ目 ヤガ科

Catocala actaea Felder et Rogenhofer

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

開張は53～58mm。前翅は黒色で横線が不明瞭，後翅中央には幅広い白色部がある。成虫は年1化で8～9月に出現し，幼虫はクヌギを食樹とする。

【分布の状況】

市内 1950年代までは旧市域のクヌギ林に生息していたが（佐藤ら，1963），宅地開発などによって絶滅した。また，西蒲区や秋葉区の里山には現在も生息している可能性があるが，今回の市内現地調査では確認できなかった。

その他 全国的には本州（岩手県以南），四国，九州に分布する。

【減少等の原因】

森林の改変，観光開発，一般開発

【特記事項】

写真の標本は，1958年に西区（青山）のクヌギ林で採集されたもの。



撮影：市域内
写真提供：佐藤 力夫

アオモンギンセダカモクメ

チョウ目 ヤガ科

Cucullia argentea (Hufnagel)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

開張は37～39mm。前翅は淡緑の地色で，銀白色紋がある。後翅は白色である。幼虫はカワラヨモギの葉を食べ，体色斑紋が花穂によく似ている。成虫は9月頃に出現し，幼虫は10月頃に見られる。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では，北区の海岸部で確認されたただだが，1950年代から60年代中頃まで旧市域の数ヶ所から記録されている（佐藤ら，1963）。

その他 全国的には，本州，四国，対馬に分布する。

【減少等の原因】

草地の減少，河川の改変，一般開発



撮影：市域内
写真提供：佐藤 力夫

イチモジヒメヨトウ

チョウ目 ヤガ科

Xylomoia fusei Sugi

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

開張は30～32mm。前翅は淡褐色で，内・外横線を連結する形で明瞭な黒色条がある。後翅は前翅よりもさらに淡い。幼虫はクサヨシなど湿地のイネ科植物につく。

【分布の状況】

市内 1963年に西蒲区（西川）で雄1個体が採集されただけで，県内の他の記録もない（佐藤ら，1963）。今回の市内現地調査でも再発見できなかった。

その他 県外では群馬県，茨城県，埼玉県，千葉県などで生息が確認されているが，いずれも沼沢地や河川敷である。



撮影：市域外
写真提供：佐藤 力夫

【減少等の原因】

水湿地の減少，一般開発

アカガネオサムシ

コウチュウ目 オサムシ科

Carabus granulatus telluris Bates

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

減少、環境悪化、局限・孤立

【形態など】

体長は20～25mm。体色は暗銅色だが、紺色を強く帯びる個体が見られることもある。上翅には列状に凹凸した独特の模様がある。上翅の1次原線は発達し、陥没部が見られる。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では、中央区（鳥屋野潟）と北区（福島潟）で確認された。

その他 本州（関東地方以北）に分布し、低湿地に生息する。新潟県が日本海側における分布の南限にあたる。

【減少等の原因】

水湿地の減少、河川の改変、農地の改変、観光開発



撮影：市域内
写真提供：櫻井 精

エチゴトックリゴミムシ

コウチュウ目 オサムシ科

Oodes echigonus Habu et Baba

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

減少、環境悪化、局限・孤立

【形態など】

体長は15mm程度。全身黒色。上翅の条溝は細く、間室は平滑である。オオトックリゴミムシ（*O. vicarius*）によく似ているが、体の大きさや、中胸突起の形状の違いから区別できる。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが、北区（福島潟）において確認記録がある（新潟県，2001）。

その他 本州（関東地方以北）に分布し、低湿地とその後背地が主な生息域である。

【減少等の原因】

水湿地の減少、観光開発



撮影：市域外
写真提供：胎内昆虫の家

カワラハンミョウ

コウチュウ目 ハンミョウ科

Cicindela laetescrpta Motschulsky

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	--------------	--------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は14～17mm。上翅は褐色または濃緑色の地色に白色の斑紋を有する。腹面は紫銅色の光沢がある。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが、過去には旧市域や、秋葉区（新津）、西蒲区（巻）から記録されている（馬場，1964）。

その他 北海道，本州，四国，九州に分布し，海岸砂丘や河原の砂地に生息する。

【減少等の原因】

一般開発



撮影：市域内
写真提供：胎内昆虫の家

ハラビロハンミョウ

コウチュウ目 ハンミョウ科

Cicindela sumatrensis niponensis Bates

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	--------------	--------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は12～14mm。銅色で溝や点刻などは青緑色を帯び，上翅に黄白色で屈曲した帯紋がある。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，1950年代には西蒲区（巻）での確認記録がある（馬場，1964）。

その他 本州，九州に分布し，海浜に生息する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，一般開発



撮影：市域外
写真提供：胎内昆虫の家

ゲンゴロウ

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

Cybister japonicus Sharp

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	--------------	--------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は36～40mm。背面は暗黒褐色で，雄は緑色の光沢を帯びるが，雌は光沢が鈍い。前胸背板と上翅の外縁には黄褐色の外縁がある。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，かつては各地の湖沼や水田に生息していたものと思われる。文献上は西蒲区（古籓，1910）の記録がある。

その他 北海道，本州，四国，九州に広く分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域外
写真提供：胎内昆虫の家

コガタノゲンゴロウ

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

Cybister tripunctatus orientalis Gschwendtner

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧Ⅰ類
-------	--------------	--------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は25mm程度。体は長卵形で，やや扁平である。体色は黒褐色で，強い光沢がある。上翅側縁に黄帯があり，翅端近くで2分する。体の下面は暗赤褐色で，腹部3～5節の両側に黄褐色の小紋がある。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，1958年に旧市域で採集された記録がある（佐藤正孝，1961）。

その他 本州，四国，九州，小笠原諸島，南西諸島に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域内
写真提供：胎内昆虫の家

エゾコガムシ

コウチュウ目 ガムシ科

Hydrochara libera (Sharp)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	--------------	--------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は16～18mm。黒色の長楕円形，背面は膨らみ，腹面はほぼ平たい。コガムシによく似るが，後胸の突起が先端部で鋭く曲がり，腹部第1節の末端まで届くほど長いことなどで区別できる。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去には北区（福島潟）での確認記録がある（新潟県，2001）。

その他 北海道，本州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，農地の改変，一般開発



撮影：市域内
写真提供：胎内昆虫の家

オオルリハムシ

コウチュウ目 ハムシ科

Chrysolina virgata (Motschulsky)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は11～15mm。ハムシ科の中では大型である。亜種区分は認められていないが，色彩について比較的顕著な地理的変異を示し，寒冷地及び日本海側の個体は全体が黒青色ないし黒藍色で，暖地の個体は赤みが強くなる。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では，阿賀野川，信濃川沿いの水湿地と福島潟とその周辺湿地（北区）で確認されている。

その他 全国的には，本州にのみ分布している。

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変



撮影：市域内
写真提供：櫻井 精



撮影：市域内
写真提供：水の駅「ビュー福島潟」

ヒナカマキリ

カマキリ目 カマキリ科

Amantis nawai Shiraki

カテゴリー	新潟市 地域個体群	新潟県 —	環境省 —
-------	--------------	----------	----------

【選定理由】

分布限界

【形態など】

体長は雄12～15mm，雌13～18mm。日本産カマキリ目のなかで最も小さな種である。体色は褐色で，全体に暗褐色や黒色の斑点がある。雄雌ともに翅がほとんど発達せず，小さく鱗片状。前脚は特に太く頑丈で，獲物を捕えるための捕獲脚となっている。



撮影：市域内 写真提供：長島 義介

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去には西蒲区（岩室，巻）の海岸部で確認記録がある（長島，2005）。

その他 全国的には，本州，九州，沖縄県に分布する。新潟県が分布の北限にあたり，佐渡や柏崎などからも記録がある。

【減少等の原因】

一般開発，その他

クマコオロギ

バッタ目 コオロギ科

Mitius minor (Shiraki)

カテゴリー	新潟市 地域個体群	新潟県 —	環境省 —
-------	--------------	----------	----------

【選定理由】

分布限界

【形態など】

体長は雄11mm前後，雌12mm前後。小型のコオロギ。全体に淡褐色で，斑紋はない。脚が黄褐色なので他種とすぐに区別できる。昼間からチルッ，チルッと鳴く。



撮影：市域内
写真提供：長島 義介

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では生息が確認されていないが，過去には旧市域や西区（黒埼）や西蒲区（巻）での確認記録がある（長島，2005）。

その他 本州，四国，九州に分布し，新潟県が日本海側における分布の北限にあたる。

【減少等の原因】

一般開発

クマスズムシ

バッタ目 コオロギ科

Sclerogryllus punctatus (Brunner von Wattenwyl)

カテゴリー	新潟市 地域個体群	新潟県 —	環境省 —
-------	--------------	----------	----------

【選定理由】

分布限界

【形態など】

体長は雄12mm前後、雌16mm前後（産卵管まで）。小型でスイカの種子のような形をしている。触角の中央部に白い帯がある。前胸背板には多数の点刻がある。畑や草地に生息し、夜間、繊細で美しい音色で鳴く。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では、西蒲区の海岸部で生息が確認されている。

その他 本州、四国、九州に分布し、新潟市（西蒲区）が分布の北限にあたる。

【減少等の原因】

一般開発



撮影：市域内
写真提供：長島 義介

マツムシ

バッタ目 コオロギ科

Xenogryllus marmoratus (de Haan)

カテゴリー	新潟市 地域個体群	新潟県 —	環境省 —
-------	--------------	----------	----------

【選定理由】

局限・孤立

【形態など】

体長は雄21mm前後、雌30mm前後（産卵管まで）。全身が淡い褐色で、不規則な黒点がある。上下に偏平な体型をしている。脚の形状や鳴き声によってスズムシと区別できる。砂丘地の草地（チガヤ群落など）に生息し、チンチロリン、チンチロリンと鳴く。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では、西蒲区の海岸部で生息が確認されている。

その他 本州、四国、九州に分布し、新潟県が日本海側における分布の北限にあたる。

【減少等の原因】

草地の減少、一般開発



撮影：市域内
写真提供：長島 義介

ナギサスズ

バッタ目 ヒバリモドキ科

Caconemobius sazanami (Furukawa)

カテゴリー	新潟市 地域個体群	新潟県 —	環境省 —
-------	--------------	----------	----------

【選定理由】

その他

【形態など】

体長は雄9mm前後、雌16mm前後（産卵管まで）。体色は黒褐色で、触角は非常に長い。アメンボのように海水面に浮ぶことができる。翅が無く、海岸の渚付近に生息するなど、形態的、生態的に特異な特徴を有する。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが、過去には西蒲区（岩室、巻地区）の海岸での確認記録がある（長島，2005）。

その他 北海道から沖縄県まで分布するが、岩の多い海岸が生息地で、県内では新潟市の他に佐渡、村上、粟島から記録されている。

【減少等の原因】

一般開発



撮影：市域内
写真提供：長島 義介

【特記事項】

別名：ウミコオロギ

フチグロトゲエダシャク

チョウ目 シャクガ科

Nyssiodes lefuarius (Erschoff)

カテゴリー	新潟市 地域個体群	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

環境悪化，局限・孤立

【形態など】

雄の開張は約29～32mm。前後ともに翅は淡黄色で、黒色の太い帯で縁取られる。雄の触角は櫛歯状で、それぞれの櫛歯は非常に長い。雌は翅が退化している。年1化で、3月上旬から出現し、下旬には見られなくなる。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査で、初めて西蒲区の海岸部で生息が確認された。

その他 北海道から九州まで分布するが、生息環境は河川敷や海岸部に限定されている。県内では、寺泊（長岡市）で少数の個体が記録されている。



撮影：市域内
写真提供：佐藤 力夫

【減少等の原因】

一般開発，その他

シンジュサン

チョウ目 ヤママユガ科

Samia cynthia pryeri (Butler)

カテゴリー	新潟市 地域個体群	新潟県 地域個体群	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

希少

【形態など】

開張は110～140mm。触角は雄では羽毛状、雌では櫛歯状である。翅は褐色で前後翅ともに半透明の三日月形の紋があり、外横線は弓形に湾曲する。前翅の先端部に黒斑がある。

【分布の状況】

市内 県内の記録は極めて少なく、市内の生息地も知られていなかったが、今回の市内現地調査で弥彦山の市域から雄1個体が確認された。

その他 全国的には、北海道、本州、四国、九州、沖縄県に分布する。北海道産は外横線が直線的で、別亜種として扱われる。

【減少等の原因】

森林の改変



撮影：市域内
写真提供：佐藤 力夫

フシキキシタバ

チョウ目 ヤガ科

Catocala separans Leech

カテゴリー	新潟市 地域個体群	新潟県 地域個体群	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

希少、局限・孤立

【形態など】

開張は50～59mm。前翅のほぼ中央に白色の小紋をもち、後翅の橙黄色帯は幅広く発達する。幼虫はクヌギを食樹とする。

【分布の状況】

市内 1960年に秋葉区（秋葉山）で採集された1雄が県内唯一の記録だったが（佐藤ら、1963）、2006年に阿賀町上川地区で1雌が得られた。今回の市内現地調査では、かつての採集地とは異なるが、秋葉区の丘陵地において生息を確認することができた。

その他 本州のかなりの地域に生息しているが、いずれも薪炭林としてのクヌギの存亡と密接に関連している。

【減少等の原因】

森林の改変、観光開発、一般開発



撮影：市域内
写真提供：佐藤 力夫

オオヒョウタンゴミムシ

コウチュウ目 オサムシ科

Scarites sulcatus Olivier

カテゴリー	新潟市 地域個体群	新潟県 地域個体群	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	--------------	--------------

【選定理由】

希少

【形態など】

体長は28～38mm。海浜性甲虫としては日本最大種である。その体長から他のヒョウタンゴミムシ類とは容易に区別できる。体色は全身黒色で光沢があり、大顎が発達する。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが、新潟東港の工事現場で近年得られた1個体が唯一の記録である（樋熊，1998）。

その他 本州，四国，九州に分布する。

【減少等の原因】

その他



撮影：市域外
写真提供：胎内昆虫の家

参考文献（昆虫類）

- 古籓安蔵, 1910. (新潟区) 弥彦方面動物. 新潟縣博物調査會誌, 3 : 10-17.
- 中村正雄, 1925. 新潟県天産誌. 中野財団. 704pp.
- 長谷川 仁, 1960. 新潟県の異翅半翅類. 長岡市立科学博物館研究報告, 1 : 19-65.
- 佐藤正孝, 1961. 馬場博士採集の新潟県産水棲甲虫類 [1]. 新潟県の昆虫, (6) : 6-15.
- 佐藤力夫・桜井 精・村木弘昌, 1963. 新潟県の蛾. 新潟県の昆虫, (7) : 1-108.
- 馬場金太郎, 1964. 新潟県のハンミョウ科. 新潟県の昆虫, (8) : 44-45.
- 巻町・潟東村教育委員会, 1976. 角田山塊の自然—角田山塊自然総合調査報告書一. 372pp.
- 井上 寛・杉 繁郎・黒子 浩・森内 茂・川辺 湛・大和田 守, 1982. 日本産蛾類大図鑑. 講談社.
- 新潟県, 1983. 新潟のすぐれた自然 動物編. 新潟県生活環境部自然保護課. 249pp.
- 新潟市史編さん自然部会, 1991. 新潟市史資料編12 自然. 新潟市.
- 新潟県, 1993. 続・新潟のすぐれた自然 動物編. 新潟県環境保健部環境保全課. 302pp.

黒埼町史編さん自然部会, 1994. 黒埼町史資料編5 自然. 黒埼町.

小池 寛, 1998. 幻でなくなった新潟県のマークオサムシ. 越佐昆虫同好会報, (77) : 34.

杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木典司, 1998. 原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑. 北海道大学図書刊行会.

樋熊清治, 1998. 新潟海岸にオオヒョウタンゴミムシ. 越佐昆虫同好会報, (79) : 70.

新潟県, 2001. レッドデータブックにいがた. 新潟県環境生活部環境企画課. 466pp.

長島義介, 2005. 新潟県の直翅目昆虫目録. 新潟青陵大学紀要5 : 91-113.

日本直翅学会 (編), 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 北海道大学出版会.

丸山 滋・櫻井 精, 2006. 新津産蝶類目録. 越佐昆虫同好会報, (95) : 1-11.

榎並 晃・大前 寛・丸山 滋, 2007. 新潟県産蝶類の記録 (2005年版). 越佐昆虫同好会報, (97) : 1-66.

Kobayashi, H. (小林秀紀), 2009. A new subspecies of *Agrotis desertorum* (Boisduval, 1840) in Japan (Lepidoptera, Noctuidae). *Tinea*, 20: 278-282.

佐藤良次, 2009. 文献から見た新潟県のトンボ相. 越佐昆虫同好会特別報告, (3) : 1-291.